

えがおのかくし味

緑岡小学校 三年 吉田 遥彩

「わあ、おいしい。今まで食べたごはんの中で、一番おいしいかも」。

わたしは、今年の夏、家そくではじめてキャンプに行っておどろきました。出発前は、すいはんきもないし、ごはんはどうやってたのかな、大へんそうだな、と心配していました。夕方になって、みんなでごはんのじゅんびをしました。お母さんがお肉の用意をしてい

る間に、わたしとお父さんでごはんのじゅんびをしました。始めにお米をあらってはんごうに入れました。そして火にかけてまちました。それから、火からおろしてはんごうをタオルでまいて、ひっくりかえしておらしました。しばらくまって、出来上がったお米を見てみると、ゆげの中から白くてつやつやしたごはんがたき上がっていたので、おいしそうです。食べるのが楽しになりました。みんなで用意したおかずといっしょにごは



んを食べてみました。お米がふっくらしていて、すごくおいしくてびっくりしました。どうしてこんなにおいしいのかな、とわたしは考えました。いつものすいはんきなら、ボタソ一つで、かんたんにお米がたき上がるけれど、キャソープでは、一つ一つ手間がかかりました。でも、くろうしながらも心をこめてがんばった分、おいしく感じたのだと思います。それに、ふだんはおいしいのが当たり前で、きちんとお米を味わっていなかったと気づきました。

そして、家ぞくみんなで作った時のくろうや味の話をしながら食べたから楽しくておいしくなったのだと思います。キャソープを通して、ごはん作りをすすんで手つだうこと、作った人への感謝の気持ちをもって味わうこと、そして大すきな家ぞくといっしょに食べるのがごはんをおいしくみんなをえ顔にする大切なかくし味になるのだと感じました。これからこのかくし味を使っ、ごはんをよりおいしく食べたいです。